

特集 道路防災エキスパート

I N T R O D U C T I O N

道路防災エキスパートの制度と活動について

道路防災エキスパートは、道路管理について専門的な知識を持ち、道路情報の迅速な収集・通報の支援活動を、自主的または要請を受けて、ボランティアで行う制度です。今回は紙面をお借りして、道路防災エキスパートの経緯・制度・活動状況についてご紹介します。また、平常時の活動として、平成21年2月9日(月)に開催されました道路防災エキスパート講習会のパネルディスカッションの内容について、論旨を事務局であります(財)北海道道路管理技術センターよりご紹介します。

1. 経 緯

記憶に新しい平成7年阪神・淡路大震災の時には、行政機関においても甚大な被害を受けました。初期段階における情報収集については、職員自ら被災していたこともあり、行政経験のある技術者のボランティア活動が、大いに役に立ったとのこと。これを契機に行政支援を趣旨とした道路防災エキスパートの制度について検討されてきました。

2. 制 度

平成8年度には建設省の重点施策として防災エキスパート制度が設立され、北海道開発局では平成9年1月に暫定的に北海道開発局建設部長通達により、(財)北海道道路管理技術センターを窓口として当該制度が自主的に設立されました。

また、平成15年台風15号や十勝沖地震等の大規模災害の経験から北海道開発局防災業務計画に道路防災エキスパートの活用を図ると明記され、平成17年1月北海道開発局長通達により、道路防災エキスパート制度要綱が策定されました。これに基づき北海道開発局から依頼を受け、(財)北海道道路管理技術センターに道路防災エキスパート事務局が設立されました。

この制度の発展に向けて、これまでエキスパートの方々の協力を得て支援活動を進めてきています。

3. 活 動 歴

平成9年～平成20年度末現在までの災害による出動実績は7回程あります。

最近では、平成15年9月の十勝沖地震発生時に余震の続く中、管内の巡回を実施し、当該開発建設部及び開発局道路維持課より感謝の意を戴いております。

また、今までの活動内容は、実際に災害の発生に伴う出動又は防災訓練での参加のみでしたが、これからは、常日頃から現職の方々とエキスパート員の意志の疎通を図ることが重要であり、いざというときにスムーズな行動ができる体制作りが求められているところであります。

このため現在全道各地区で、どのような活用を図っていくか等について、開発局・エキスパート・事務局の三者で取り組んでいるところです。

——— 現場出動実績 ———

- ①平成09年08月：国道5号八雲町野田追橋の災害で12名出動^{*1}
- ②平成09年08月：国道229号島牧村第2白糸トンネル災害で10名出動^{*2}
- ③平成10年09月：帯広管内台風5号災害で5名出動^{*3}
- ④平成11年08月：国道229号豪雨災害(小樽開建)で4名、(函館開建)で3名出動^{*4}
- ⑤平成15年09月：十勝沖地震災害(帯広開建)で7名出動^{*5}
- ⑥平成18年10月：北見豪雨災害で3名出動^{*6}
- ⑦平成20年06月：北海道洞爺湖サミットに向けた支援活動(国道230号道路点検パトロール【札幌地区・小樽地区・室蘭地区】)で17名出動

※1 野田追橋： 八雲町 国道5号

平成9年8月10日発生。午前5時に連続降雨量190mmの大雨により、野田追川が増水して野田追橋の橋脚の下が洗掘され約1m垂直に沈下し、上部形式のコンクリート桁がV字に傾斜して車両の通行が不可能となった。



野田追橋被災状況写真

※2 第2白糸トンネル災害： 後志管内島牧村 国道229号

平成9年8月25日、南側坑口付近で大規模な岩盤崩落が発生。1回目は午後2時30分頃、崩落規模は、最大高さ約130m、最大幅約70m、最大厚さ約20m体積は約42,000m³であった。この崩落により函館側の巻き出し部114m、擁壁部12mの計126mが損傷した。2回目の崩落は、8月28日の午後1時30分頃発生し、規模は最大高さ約80m、最大幅約30m、最大厚さ約20m、体積約14,000m³であり、合計56,000m³の崩落規模であった。

※3 帯広管内台風5号災害

平成10年9月16日、午前8時45分に十勝全域に大雨洪水警報が発令された。広尾町の総雨量は352mm(20時間)、時間最大雨量68mm(15時～16時)であった。国道336号の通行止め期間は、9月16日12時30分～9月18日19時00分までの54時間30分であった。

※4 国道229号豪雨災害： 八雲町、熊石町

平成11年7月30日に発生した台風7号の影響により、8月2日までの総雨量は、八雲町で237mm(時間最大23mm)、熊石町で249mm(時間最大26mm)であった。小樽・函館管内の国道229号、277号、227号が土砂災害により通行止めとなった。

※5 十勝沖地震災害

平成15年9月26日4時50分に発生。地震の規模はマグニチュード8.0で十勝管内中部・南部の震度は最大で6弱であった。震源地は十勝沖で震源深さは45km。主な国道被害は国道38号・336号豊頃町十勝河口橋で桁端部が最大70cmの横ずれが認められた。国道242号池田町千代田大橋では、RC橋脚のひび割れ・被りコンクリートの剥離等が認められた。

※6 北見豪雨災害

平成18年10月7日～9日に発生した低気圧により、オホーツク海側を中心に記録的な大雨となった。国道333号北見市北陽地区では観測以来最大値283mm/45時間を観測した。この大雨の影響により、国道333号では、延長約1.5kmにわたり、道路の盛土・橋の決壊等で通行止めとなった。



国道333号の冠水状況写真